

祭典総監督 池辺晋一郎先生を迎えての合同練習 「私たちが進みつづける理由」練習会

音楽センターより祭典時発売で、CDを製作する事になりました。

池辺先生に、ご了承戴きましたので24日に収録を致します。



SHIN-ICHIRO IKEBE
池辺 晋一郎

11月18日(火) 練習会場
赤羽会館講堂



[交通案内]
「JR赤羽駅」東口 徒歩5分
地下鉄南北線赤羽岩淵駅 徒歩10分

日時 10月24日(金)
午後6時30分より

会場 江東区文化センター

日時 11月18日(火)
午後6時30分より

会場 赤羽会館講堂

参加費 500円

すべての労働者のために、
すべての父親のために、
すべての母親のために、
すべての子ども達のために、
...私たちは進む

10月24日(金)
練習会場 江東区文化センター
地下鉄東西線「東陽町」より徒歩5分



「私たちが進みつづける理由」

アメリカでは貧困ゆえに子どもが軍隊に入り、戦場に送られる。こんな状況をなくそうとたたかう母親のひとり、キム・ロザリオさんの「百万人の労働者デモにて」と副題のついた詩。

ジャーナリスト堤未果さんが著書「報道が教えてくれないアメリカ弱者革命」巻末に掲げた訳詩を、祭典総監督をお受け戴いた池辺晋一郎さんが合唱曲にして下さいました。

堤さんの訳詩をそのまま歌詞にした作品です。日本でも貧困、雇用問題、ワーキング・プアなどの状況を打開し、人間らしく生き働きたいと、たたかいや運動のうねりが起きています。私たちが共通して抱くその願いを、うたごえ祭典で、この作品で歌い上げましょう。

詩を書いた、キム・ロザリオさん

ヒスパニック系のアメリカ人。息子をイラク戦争に送ってしまった母親として、その後悔と、もうこれ以上悲しい想いをする母親を出さないと、シンディ・シーハン(同じくイラクで戦死した米兵の母親で、ブッシュの私邸前にキャンプして面会を求めた。派兵反対の象徴的存在)さんらと共に反戦行動を始めました。

しかし、息子を戦場に送らねばならなかったアメリカ社会の深刻な現実には容易ではありません。が、2004年10月16日ワシントンDCでは労働者の100万人デモとなり、その時の思いを綴ったものが歌になりました。



合唱指揮者・岩本達明さんをつくる
「私たちが進みつづける理由」

10月13日(祝) 15:00 ~ / 高田馬場シロアム教会
参加費 500円

各合唱団の公開練習

* 三多摩青年合唱団 10月15日(水) 19:00 ~
国立商協ビル2F (JR「国立」2分)

* 中央合唱団 10月30日(木) 18:30 ~
音楽センター地下ホール

参加費 500円

